

## 7. 学習成果の活用の実態とニーズ

### (1) 学習成果の活用の実態

図 28 は、学習成果の活用の実態をみたものである。

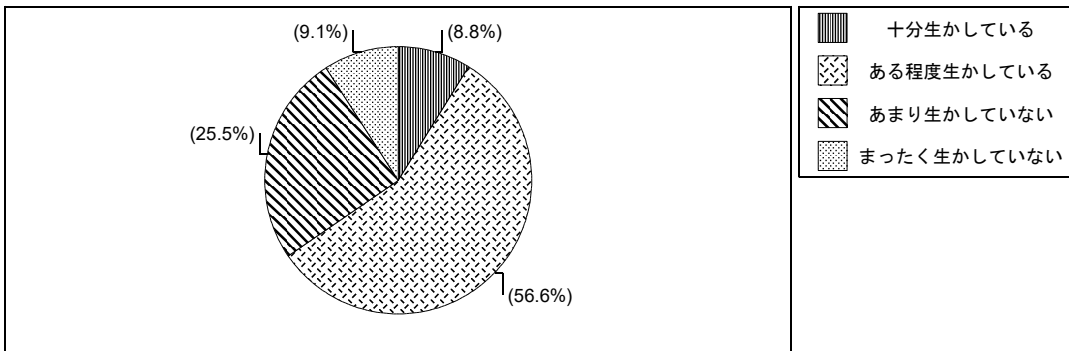


図 28 学習成果の活用の実態

その結果、8.8%の人が「十分に生かしている」と回答し、「ある程度生かしている（56.6%）」をあわせると 65.4%の人が学習成果を「生かしている」と回答していた。

これを、性別にみたのが図 29 である。

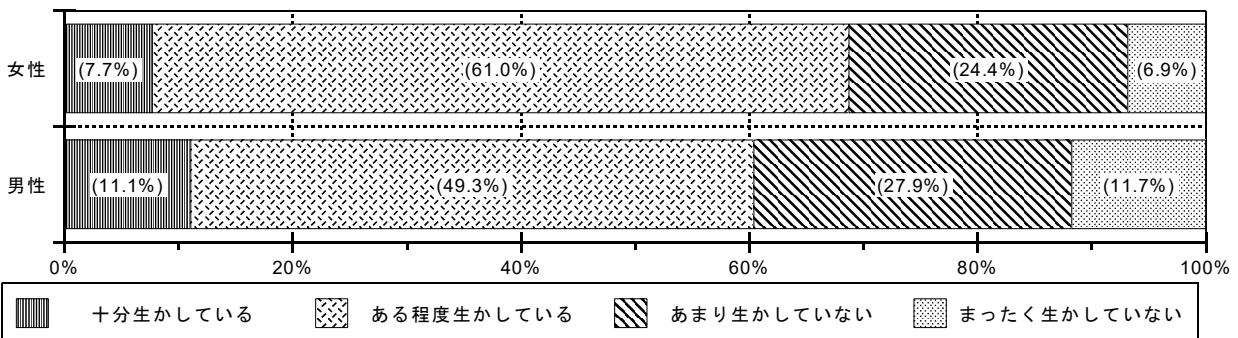


図 29 性別にみた学習成果の活用の実態

その結果、学習成果を「生かしている（「十分に生かしている」＋「ある程度生かしている」）」と回答した人の率は、「女性」で 68.7%、「男性」で 60.4%であり、明確な差は認められなかった。

次に、年代別にみたのが図 30 である。

その結果、学習成果を「生かしている（「十分に生かしている」＋「ある程度生かしている」）」と回答した人の率は、「成人前期」の人で 66.9%、「成人中期」の人で 53.7%、「成人後期」の人で 71.5%であり、「成人中期」の人の率が低くなっていた。

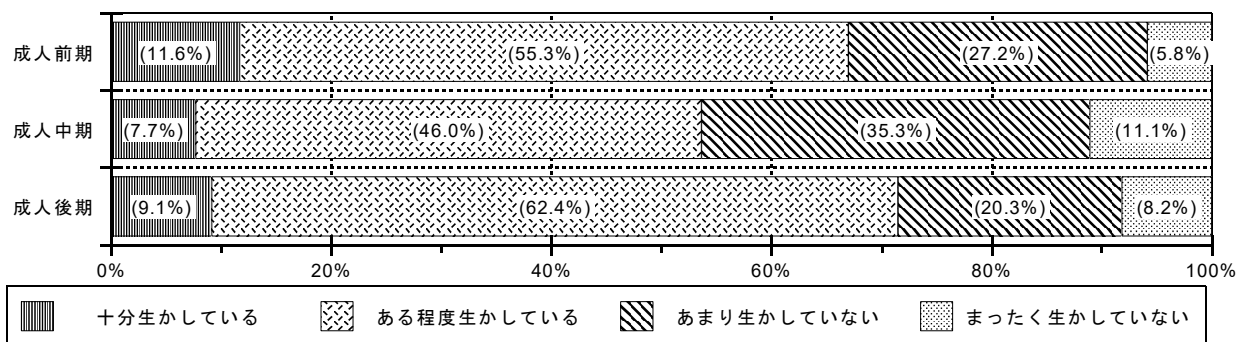


図 30 年代別にみた学習成果の活用の実態

(2) 学習成果の活用ニーズ

図 31 は、学習成果の活用ニーズをみたものである。

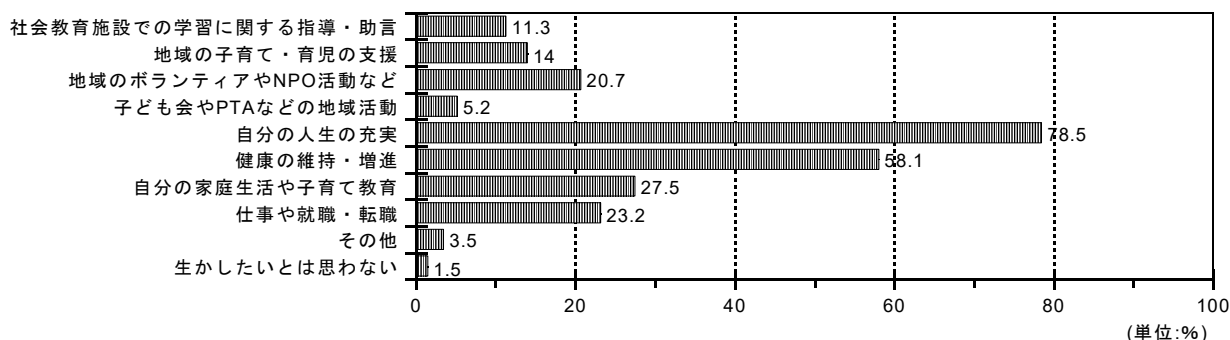


図 31 学習成果の活用ニーズ

まず、「生かしたいとは思わない」と回答した人の率は 1.5%であり、98.5%の人が何らかの形で学習成果を「生かしたい」と考えていることが明らかとなった。

生かしたい活動としては、「自分の人生の充実」をあげた人の率が 78.5%でもっとも高く、次いで「健康の維持・増進 (58.1%)」、「自分の家庭生活や子育て教育 (27.5%)」の順となっていた。

これを、性別にみたのが図 32 である。

まず、「生かしたいとは思わない」と回答した人の率は「女性」で 1.3%、「男性」で 1.7%であった。

生かしたい活動としては、男女とも「自分の人生の充実」をあげた人の率がもっとも高く、次いで「健康の維持・増進」であることは共通していたが、次いで「女性」では「自分の家庭生活や子育て教育」、「男性」では「仕事や就職・転職」となっていた。

また、男女で比較すると、「自分の家庭生活や子育て教育」では「女性」の率が高くなっていた。

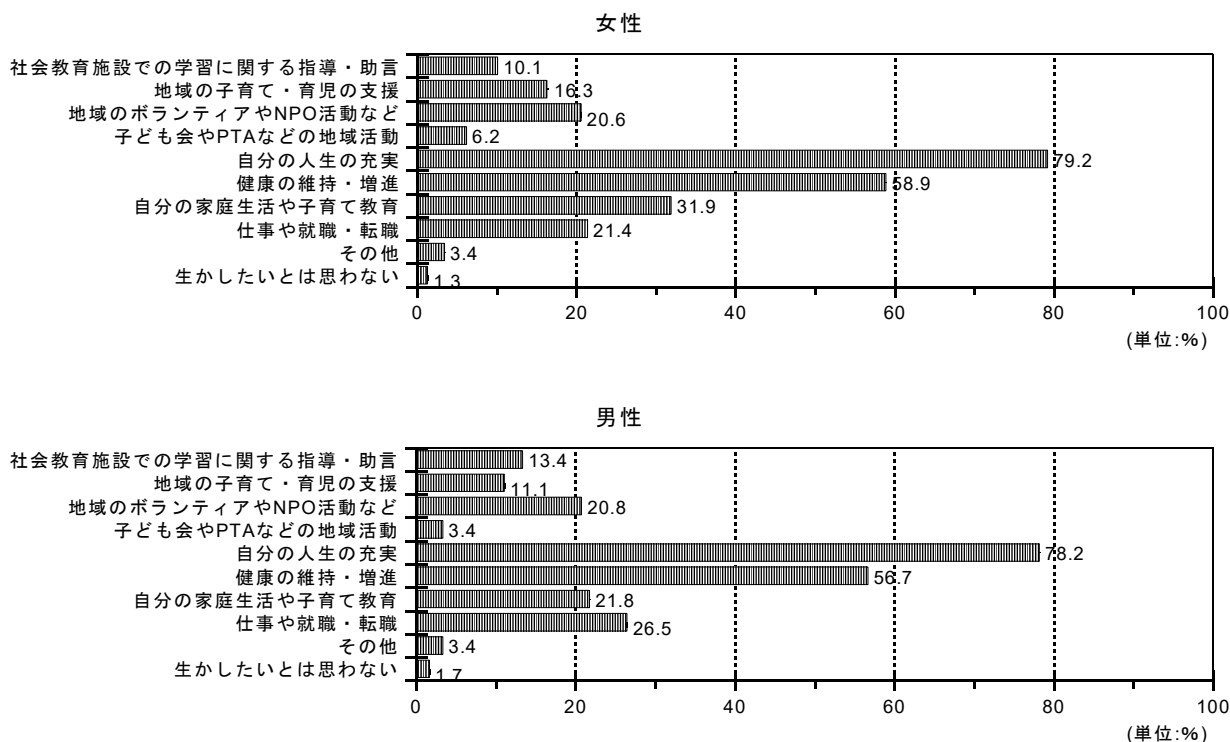


図 32 性別にみた学習成果の活用ニーズ

次に、年代別にみたのが図 33 である。

まず、「生かしたいとは思わない」と回答した人の率は「成人前期」の人で 1.0%、「成人中期」の人で 2.1%、「成人後期」の人で 1.2%であった。

生かしたい活動としては、すべての年代で「自分の人生の充実」をあげた人の率が高かったが、次いで「成人前期」の人では「仕事や就職・転職」、「自分の家庭生活や子育て教育」、「成人中期」の人では「健康の維持・増進」、「仕事や就職・転職」、「成人後期」の人では「健康の維持・増進」、「地域のボランティアやNPO活動など」の順となっていた。

また、年代で比較すると、「仕事や就職・転職」、「地域の子育て・育児の支援」、「自分の家庭生活や子育て教育」は「成人前期」の人の、「健康の維持・増進」、「地域のボランティアやNPO活動など」では「成人後期」の人の率が高くなっていた。

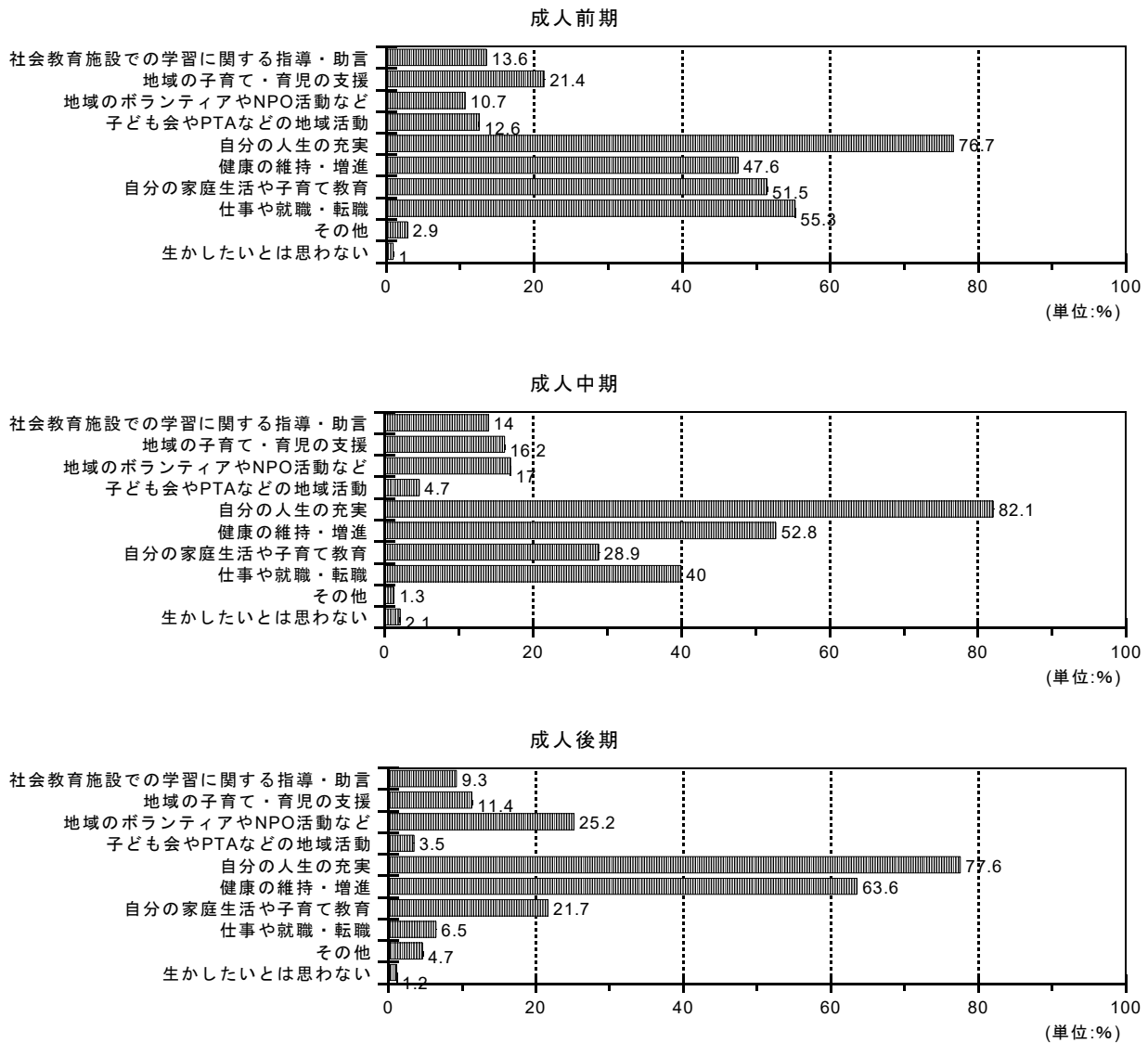


図 33 年代別にみた学習成果の活用ニーズ